# ハット形鋼矢板

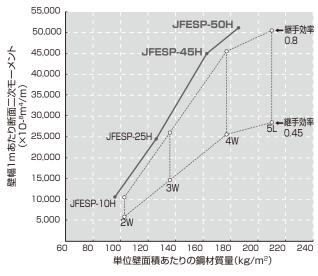
## 鋼材重量の低減



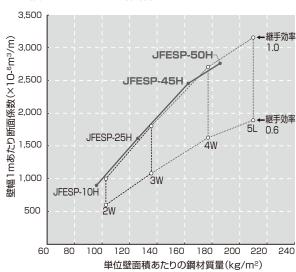
### 鋼材重量の低減

継手位置の壁体最外縁配置で、従来の鋼矢板で課題であった継手効率による断面性能低減が不要となり、かつ、薄肉大断面形状としたことにより、単位壁面積あたりの鋼材重量を低く抑えることができ、経済性の向上が可能になりました。広幅型 (600mm) 鋼矢板と比較した場合、単位壁面積あたりの鋼材重量を 7~29%程度低減できます。

#### ■壁幅1mあたりの断面二次モーメント



#### ■壁幅1mあたりの断面係数



## 工事費削減・工期短縮

継有効幅 900mm の大断面ハット形状の採用により、施工延長あたりの施工枚数を少なく抑えることができ、工事費縮減と工期短縮が可能となりました。例えば広幅型(600mm)鋼矢板と比較した場合、所定の施工延長あたりの施工枚数を 2/3 に低減できます。

#### JFE スチール 株式会社

https://www.jfe-steel.co.jp

お客様へのご注意とお願い

- ●本書に記載された特性値等の技術情報は、規格値を除き何ら保証を意味するものではありません。
- ◆本書記載の製品は、使用目的・使用条件等によっては記載した内容と異なる性能・性質を示すことがあります。
- ◆本書記載の技術情報を誤って使用したこと等により発生した損害につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。